

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～ ICT 化、多様化に対応し、国内外で社会貢献できる人物を育てる学校をめざす ～

1. 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することをめざすとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育む
2. 多文化理解教育を一層推進し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力に加えて世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度を身につけることで、文化が異なる人々と協働して社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する人物を育てる
3. 豊かな心や社会人基礎力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化【授業力】

- (1) 希望進路を実現するために必要となる基本的な知識及び技能を確実に習得させる。
 - ア 自宅学習につながる適切な課題等の設定や校内学習環境の整備により、学習習慣を身につけさせる。
 - イ 学習指導の方法、評価方法についての研究を一層進め、指導と評価の一体化をめざす。
 - ウ ICT の活用や生徒が能動的に学習するわかりやすく、学習定着率の高い授業をめざし、常に授業改善を図る。
 - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を令和10年度80%台とする。(R5:70%, R6:73%, R7:77%)
 - ※ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答を令和10年度も80%台を維持する。(R5:87%, R6:88%, R7:82%)
 - ※ 英語検定準2級相当以上の合格者合計が令和10年度150名にする。(R5:81名, R6:121名, R7:140名)
 - ※ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数が令和10年度には300名以上となることを維持する。(R5:290名, R6:360名, R7:311名)
- (2) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する。
 - ア グローバル社会を生き抜く力の育成のため、多文化交流・海外研修・関連行事等を充実させ、多文化理解教育を推進する。
 - イ 多くの発表機会を設け、探究的な学びの一層の充実を図り、様々な課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力」を育む。
 - ウ 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実させる。要支援生徒に対しては、スクールカウンセラーと協働した教育相談の充実、遠隔授業を活用した不登校生徒の学習保障、日本語指導が必要な生徒に対する教科指導の工夫に努める。

2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成【自立・自己実現】

- (1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな感性や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める。
 - ア 総合的な探究の時間やHRを活用し、生徒の生きる力の醸成を図る。
 - イ 部活動や有志の地域行事への参加等を通して、ボランティア活動への意識を高める。
- (2) 豊かな感性をもち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める。
 - ア 普通科、国際文化科の両科ともに国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受入れ等に取り組むとともに日本文化への理解を深める。
 - イ 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む。
 - ウ 地域住民や小・中学校、企業、大学、行政等の外部機関の専門的な知見やフィールド等を活かした連携を通じてさらなる教育内容の充実に努める。
 - エ 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできるしなやかな心と規範意識を育む。
 - ア 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。
 - イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う。
 - ※ 身だしなみ、不注意による遅刻がないように指導を継続する。遅刻について、令和10年度2000件以下にする。(R5:2848件, R6:2583件, R7:3137件)
- (4) 巨大地震等自然災害に対する防災・減災意識の醸成を図り、安全に関する情報を正しく判断し行動できるようにする。
- (5) 複雑化・多様化する健康課題への意識を高め、健康の保持・増進にかかる取組みの推進及び健康教育の充実に努める。

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、学校全体で「旭で伸ばす」の目標を持ち、邁進できる組織を構築する。
 - ア 「NEXT10委員会」を核として、「これからの旭」の課題解決を図るとともに、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める。
 - イ 運営会議、職員会議などの充実に図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う。
 - ウ 個人情報の適正な管理に努める。
- (2) 校務の効率化を図るとともに、働き方改革を進め、生徒と向き合う時間を確保する。
 - ア グループウェア等を活用し校務運営の効率化を進める。また、保護者連絡ツールを有効に活用し、家庭との意思疎通を積極的に行う。
 - イ 学校休業日や部活動休養日を着実に設定し、生徒、教職員が心身ともに健全であるように努める。
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実に努める。
 - ア 学校ホームページや公式SNSを充実させて効果的な情報発信をすることにより、広く学校を理解してもらえるように努める。
 - イ 校内美化に努めるとともに、令和10年度に向けて校内設備の安全と充実に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化 授業力	(1) 希望進路を実現するために必要となる基本的な知識及び技能を確実に習得させる。 (2) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する。	(1) ア・日々の学習習慣を身につけさせることで、学習内容の定着、学力の伸長を図り希望進路の実現につなげる。教室・図書室以外の自習場所として、新たに個別ブース型の自習室を設置し運用する。 イ・学習指導の方法、評価方法についての研究を一層進める。 ウ・ICTの活用や生徒の活動時間を増やし、学習定着率の高い授業をめざす。 (2) イ・普通科の「総合的な探究の時間」をグループから個人探究とし探究を深化させる。探究や発表機会を通して、「思考力、判断力、表現力」「プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力」を養う。 ・大学見学や説明会、模擬授業等を通して、自らのキャリア形成への意識を高め、さらに希望する進路実現につなげる。 ウ・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実させる。特に、日本語指導が必要な生徒に対する教科指導の工夫に努める。 生徒支援委員会で共有した内容を、必要に応じて外部との連携や、生活指導部、いじめ対策委員会、教務部等へつなげる体制を整える。	(1) ア・新たな自習室を設置、運用する。 ・学校教育自己診断（生徒）「平日の授業以外の学習時間」の「していない」を減少させる。〔1年38%, 2年30%, 3年21%〕 ・授業アンケート「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」の肯定的評価80%以上。 〔82%〕 ・国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数300名以上を維持。 〔311名〕 イ・学校教育自己診断（教職員）「評価について話し合う機会がある」及び「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」の肯定的評価、それぞれ85%, 90%以上維持。 〔88%, 94%〕 ウ・学校教育自己診断（生徒）「学校では、生徒1人1台端末を効果的に利用している」及び「授業はわかりやすい」の肯定的評価、それぞれ97%, 75%以上。 〔97%, 77%〕 (2) イ・学校外・体育館・視聴覚教室等での多人数に対する発表機会、1、2年計7回。 〔7回〕 ・大学見学会、大学による模擬授業合計3回実施。〔3回〕 ウ・「生徒支援委員会」「帰国生支援委員会」をそれぞれ時間割に入れ定期開催し、適時支援の実施につなげる。 ・学校教育自己診断（生徒）「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」の否定的評価を昨年以下。〔3%〕	
	(1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな感性や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める。	(1) ア・R11年度以降の学科改編に向け、教育課程等の検討を開始する。 イ・「SafetyBicycle推進校として、生徒会を中心に、具体的な取組みを実施する。 ・「みんなのおまつり」等の地域行事にボランティアとして参加する。	ア・教育課程委員会と連携するプロジェクトチームを組織する。 イ・「SafetyBicycle推進校として、具体的な取組みを実施する。 ・地域行事にボランティアとして参加、2回以上。〔2回〕 ・学校教育自己診断（生徒）「活動規模の大小を問わず、社会貢献活動に関わることは大切だと思う」の肯定的評価90%以上を維持。〔96%〕	

2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成 自立・自己実現	(2) 豊かな感性をもち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める。	(2) ア・事前・事後指導を計画的効果的に組立て、充実した海外研修を実施する。語学研修では海外姉妹校生徒との交流と他国研修生との共同的な学びを深め、海外修学旅行では現地校との交流活動を積極的に行う。 ・外国にルーツのある生徒、短期・長期の留学生との交流を通して多文化理解を深める。 エ・体育祭・文化祭等を通して、自他の違いを認め、協調し、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む	(2) ア・海外語学研修実施後のアンケートの肯定的回答 95%以上を維持。[97%]	
	(3) 学校のエデュケーション全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む。	(3) ア・自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる精神「自主自律(校訓)」を醸成する。 イ・学校における生活指導は、学校全体で組織的かつ丁寧に行う。 ・生徒に身だしなみを正す意味や挨拶の大切さを考えさせた上で、丁寧に行う。 ・携帯電話の扱いについて考えさせる機会を持つとともに SNS に関係するトラブルがないよう指導を行う。 ・不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し、礼儀など社会的常識を身につけることで、社会人としての規範意識や協調性を培う。	(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校は生活規律や学習指導基本的習慣の確立に力を入れている」の肯定的評価 85%以上を維持。[89%] ・学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的評価 85%以上を維持。[94%] ・学校教育自己診断(生徒)「人権について学ぶ機会がある」の肯定的評価 90%以上を維持。[97%] イ・学校教育自己診断(教職員)「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」の肯定的評価 80%以上。[79%] ・学校教育自己診断(保護者)「学校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定的評価 70%以上。[66%] ・SNS に関するモラル指導、トラブルについての講習を年度当初に 1 回行う。 ・遅刻数 2000 件以下。[3137 件]	
	(4) 巨大地震等自然災害に対する防災・減災意識の醸成を図り、安全に関する情報を正しく判断し行動できるようにする。	(4) ・自然災害への備えや事故防止の観点から、命を守るための安全確保や安全管理に努めるとともに、生徒・教職員の防災・減災意識を高める。	(4) ・防犯・防災計画に基づいた避難訓練等を工夫し、実施する。 ・学校教育自己診断(生徒)「学校で、事件・地震や火災などが起きた場合、どう行動したらよいか知らされている」の肯定的評価 90%以上を維持。[93%]	
	(5) 複雑化・多様化する健康課題への意識を高め、健康の保持・増進にかかる取組みの推進及び健康教育の充実を図る。	(5) ・薬物乱用防止教育、性に関する指導、心肺蘇生実習など、健康の保持・増進にかかる取組みを推進する。	(5) ・薬物乱用、心肺蘇生、性に関する講習・実習を工夫し、それぞれ 1 回以上実施する。[各 1 回] ・生徒保健委員会を中心として健康教育にかかる取組みを進め、研究を深めて整理し、府立学校保健研究大会などの機会に成果発表を行う。	
	(1) 教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「旭で伸ばす」の目標を持ち邁進できる組織を構築する。	(1) ア・NEXT10 委員会で諸課題を洗い出し、課題解決を図るとともに教職員の改善意識を醸成する。 イ・よりよい校務分担体制を維持し、学校運営を組織として円滑に行う。 ウ・個人情報管理のためのルールを明確化し、研修等により教職員の意識を高め、個人情報の	(1) ア・NEXT 10 委員会から少なくとも 1 つの提案を行う。[2 つ] イ・学校教育自己診断(教職員)「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」の肯定的評価 60%。[59%] ウ・他校で生じた事例等を共有し、同様の事案生起を防止に努める。	

3 学 校 の 特 色 づ く り と 組 織 力 の 向 上 学 校 運 営	(2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を増やす。 (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る。	紛失や流失を防止する。 (2) ア・教職員間メールや掲示板、グループウェアを活用し、会議の時間短縮を図るなど、校務の運営の効率化を進める。 ・家庭への連絡事項については、必要に応じて連絡用メール等を利用し、保護者への周知を図る。 イ・働き方改革の取組みを一層推進する。 ・学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守し、「年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員」を 0 にする。 (3) ア・公式 SNS を充実させ、本校の魅力を適切に発信する。 ・学校ホームページにゆめ基金募集や連携大学等のバナー広告を掲載し、連携の可視化・情報取得の利便性を図るとともに、多目的に利用可能な定期収入獲得をめざす。 イ・食堂のイス・机を交換し、多目的利用を推進する。 ・常に校内設備を点検し、不備が生じた場合は即時に対応する。	・学校教育自己診断（生徒）「成績などの内容についてプライバシーが守られている」の肯定的回答を 100%にする。 [96%] (2) ア・全ての定例職員会議を予定時間内に終了する。 ・学校教育自己診断（保護者）「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的評価 70%。[64%] ・新導入の「保護者連絡ツール」を安定的に運用する。 イ・「年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員」を 0 にする。[4 名] (3) ア・公式 SNS フォロワー数を 12 月末で 1000 人以上。 [551 人 R8/1/16 現在] ・ゆめ基金募集やバナー広告の掲載を開始する。 イ・食堂のイス・机を交換し、多目的利用を推進する。	
--	---	--	--	--